

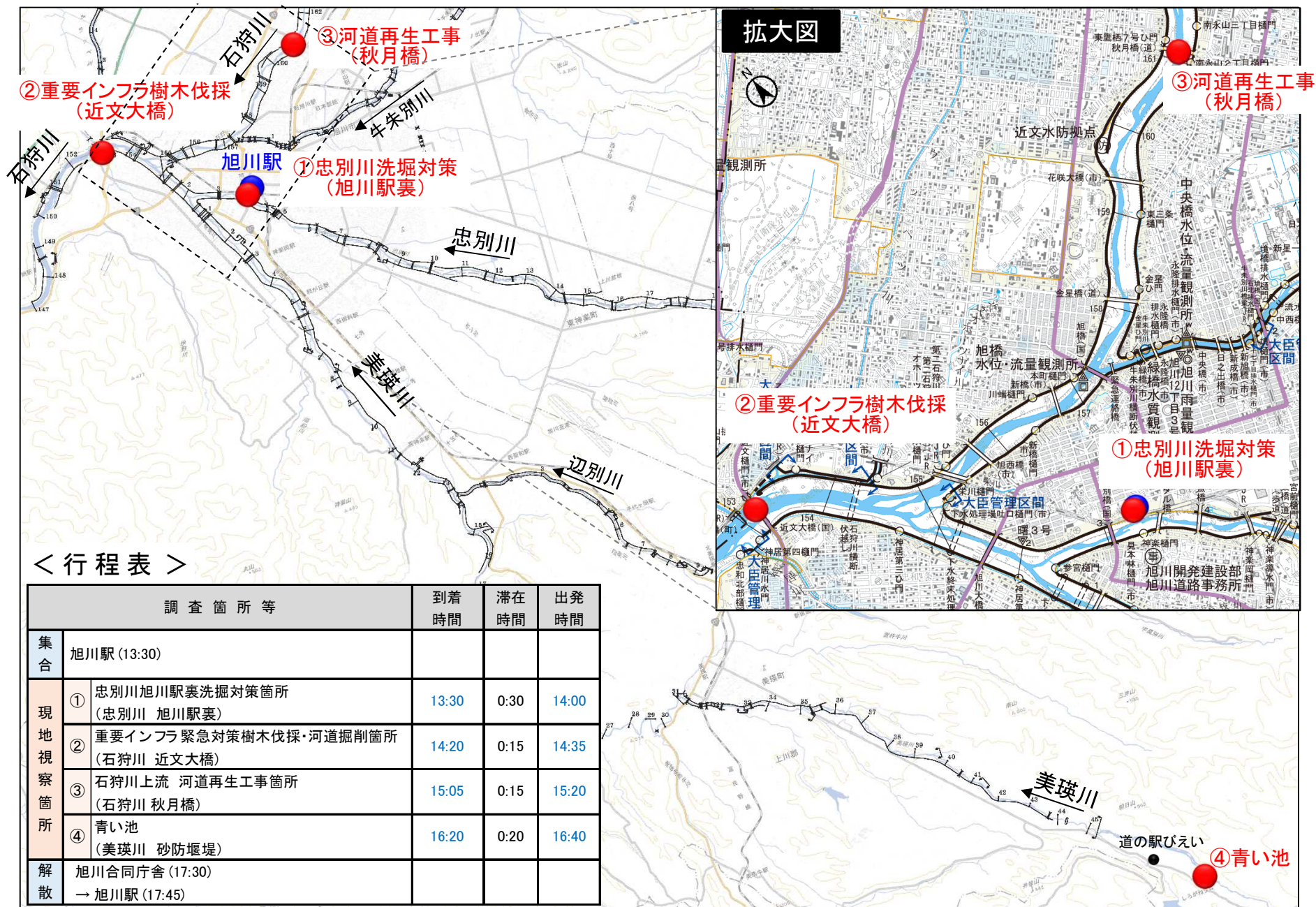
令和元年度

石狩川上流 河道管理ワーキング ＜現地視察会＞

令和2年2月6日（木）

北海道開発局 旭川開発建設部
旭川河川事務所

■ 本日の現地視察箇所



1. 忠別川旭川駅裏洗掘対策について

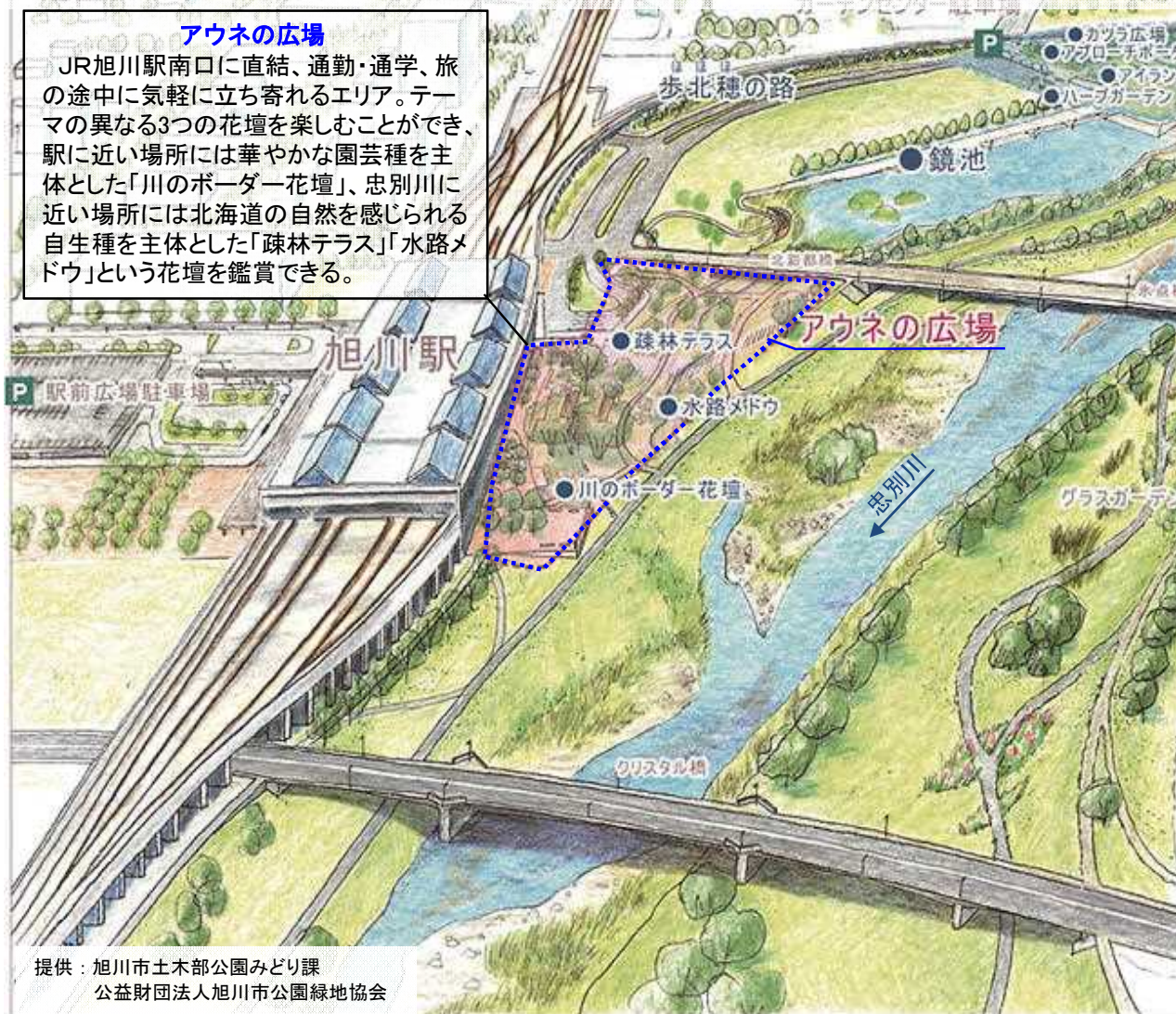
旭川駅周辺と忠別川

「あさひかわ北彩都ガーデン」について

あさひかわ北彩都ガーデンは、旭川駅に直結したまちの中心にある全国的にも珍しいロケーションのガーデンです。
駅の西コンコースを通して歩行者専用道路「買物公園」へと繋がる市街地でありながら、南側には雄大な忠別川が流れ、旭川の自然が広がります。
川や大雪山を眺め、身近な自然の美しさに改めて気づかされる、そんな癒しの空間が広がります。

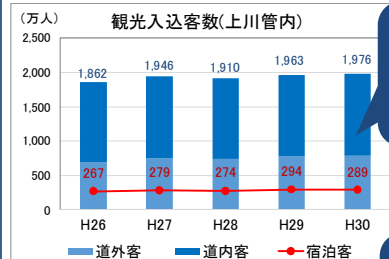
アウネの広場

JR旭川駅南口に直結、通勤・通学、旅の途中に気軽に立ち寄れるエリア。テーマの異なる3つの花壇を楽しむことができ、駅に近い場所には華やかな園芸種を主体とした「川のボーダー花壇」、忠別川に近い場所には北海道の自然を感じられる自生種を主体とした「疎林テラス」「水路メドウ」という花壇を鑑賞できる。

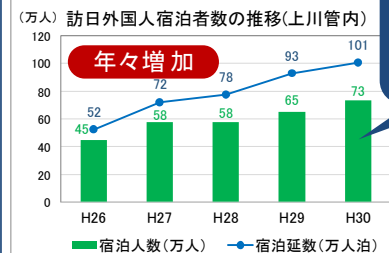


上川管内の観光客数について

上川管内の観光入込客数は、約2千万人弱で、宿泊客数は、2百万人台後半。外国人宿泊者数は年々増加している。



うち旭川市の
観光入込客
数は、527万
人（H30年度）



上川管内の
訪日外国人
宿泊者数も
年々増加

新たにオープンした道の駅びえい「白金ビルケ」やクラブメッドマムなどの観光スポットに加え、スキーをはじめとする冬ならではの雪を楽しむアクティビティが人気を集め、定番観光スポットである「青い池」や「旭山動物園」などが引き続き人気を集めている。

旭川駅は、これらの観光の拠点・中継点としての役割を担っている。

出典：「平成30年度上川管内観光入込客報告書(北海道上川総合振興局)」を元に作成

提供：旭川市土木部公園みどり課
公益財団法人旭川市公園緑地協会

旭川駅周辺と忠別川

■駅南側の概要

- 旭川市では「北彩都あさひかわ」として、「都心オアシスの形成」をコンセプトに、忠別川の自然豊かな環境を生かした川からのまちづくりを目指している。
- 駅南側は、景観も良く、駅からの水辺へのアクセス、地域イベントの広場等として活用されている。
- 忠別川は、洪水流の安全な流下（治水機能）、上川盆地のサケ再生産を担う等（環境機能）の機能を有している。

美しい景観の忠別川とJR旭川駅



H26年7月撮影

サケ産卵環境の多い区間



R01年7月撮影

◆平成27年度 都市景観大賞都市空間部門・大賞（国土交通大臣賞）（H27.5.26）
川と都市が融合した空間、従来にはなかったタイプの景観づくりが評価

◆平成27年度 土木学会デザイン賞・最優秀賞（H27.12.4）
関係者一同に会する「推進会議」の場で議論。基本構想から20余年、一貫した推進体制が取られ、この空間や施設実現の鍵となったことも評価

旭川駅周辺と忠別川

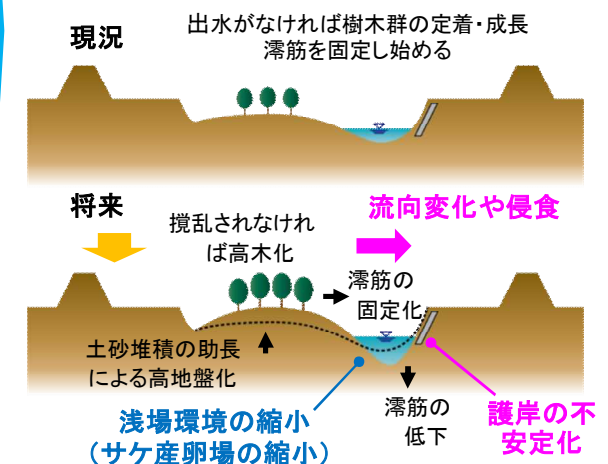
■現状と課題

- 駅南側右岸については、緊急用河川敷道路(H21～H24)や、利活用を考慮した覆土(H19～H22)を整備した。
- しかし、直後のH23.9月出水や経年変化により、覆土の侵食、砂州の発達が生じ、近年は樹林化も加速している。
- このため、洪水時における駅南側の洗掘や、平常時のサケ産卵場の縮小等が懸念される状況となっている。

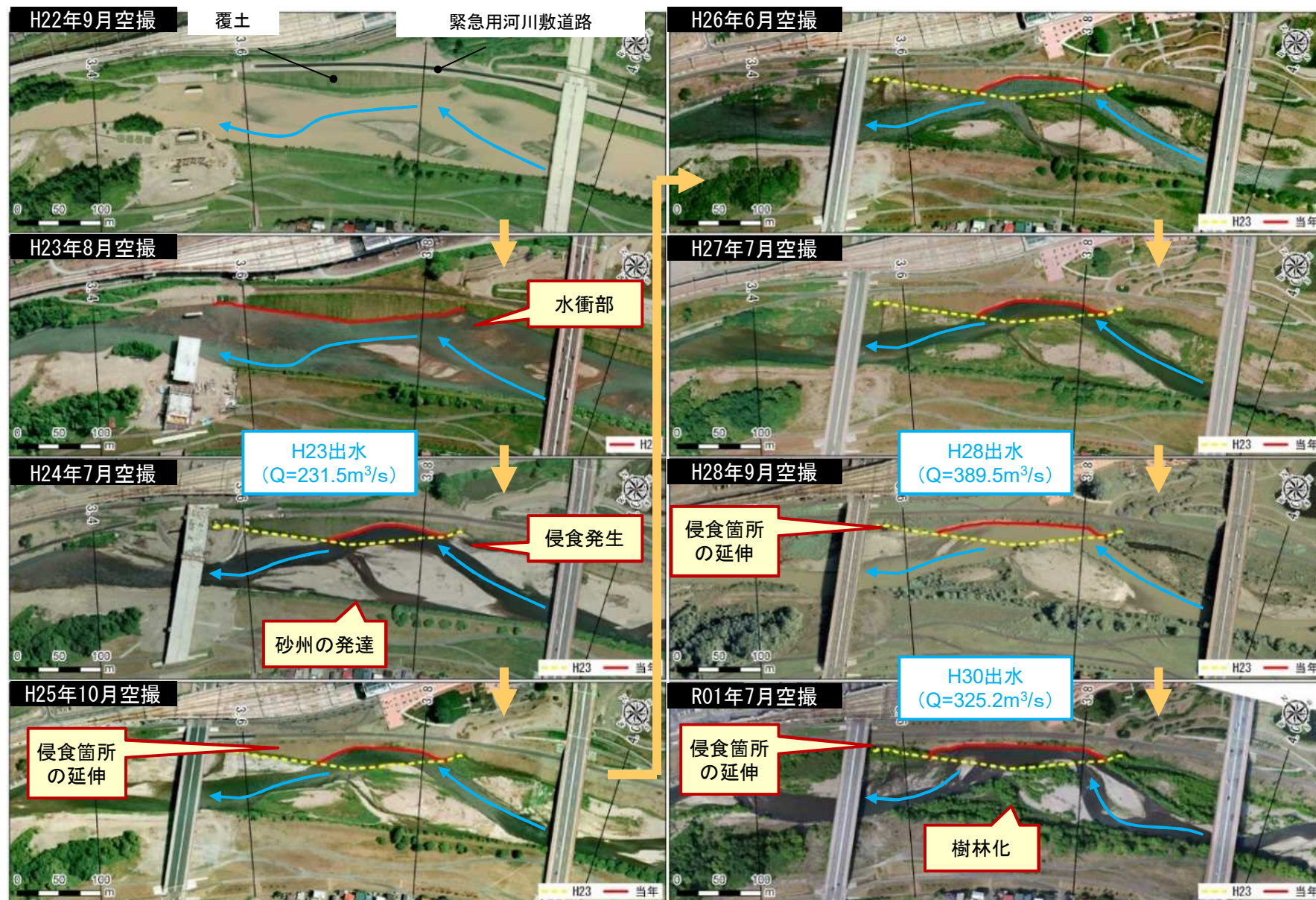
《河道変化の状況》

- ・ H23出水で侵食・砂州の発達が生じ、以降、H28出水・H30出水で侵食箇所が延伸
- ・ 近年では樹林化も進行

《課 題》



旭川駅周辺と忠別川



旭川駅周辺と忠別川

■横断の変化状況について

- R01横断では、全体に堆積傾向にあるが、滞筋部は洗掘傾向にあり、二極化が進行している。
- KP3.8付近より下流は洗掘傾向であるが、現状では右岸の護岸工は安定している。(一部法覆工の露出のみ)

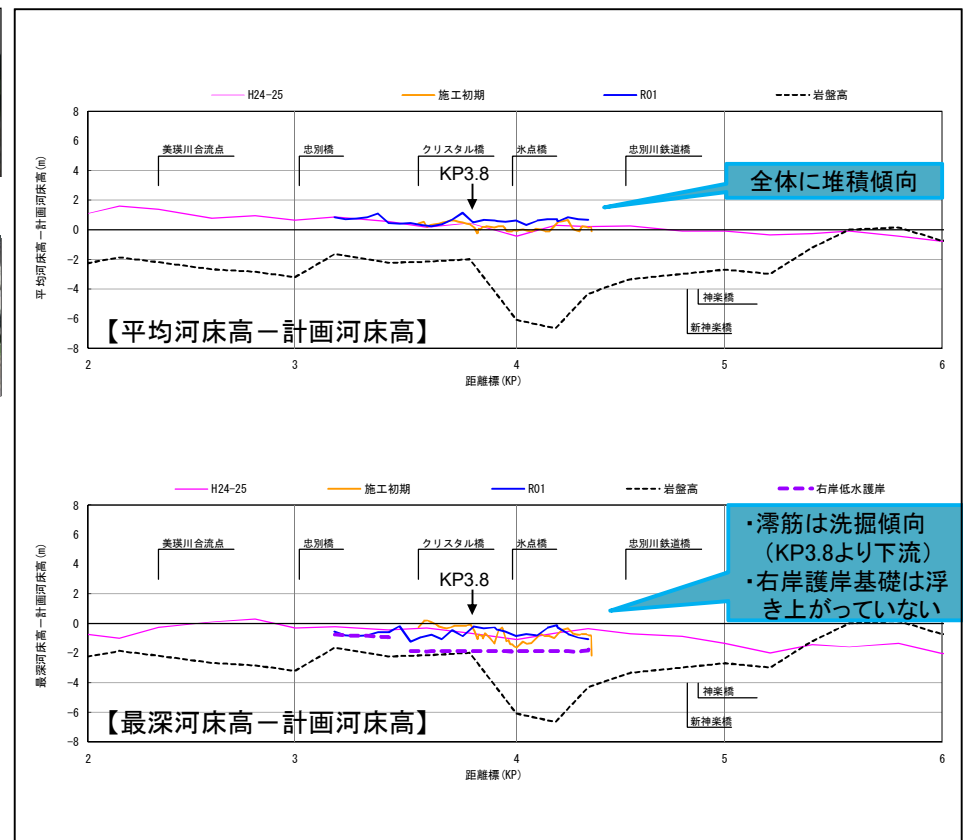
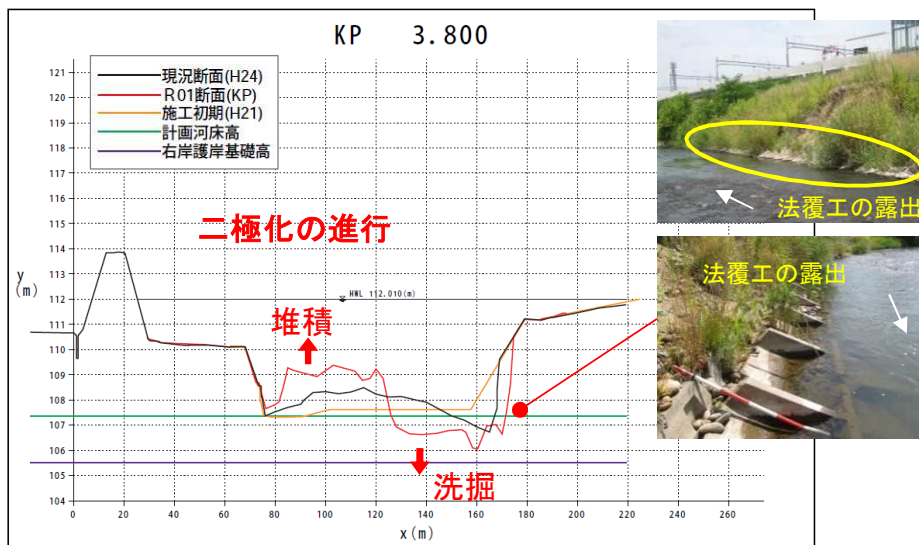
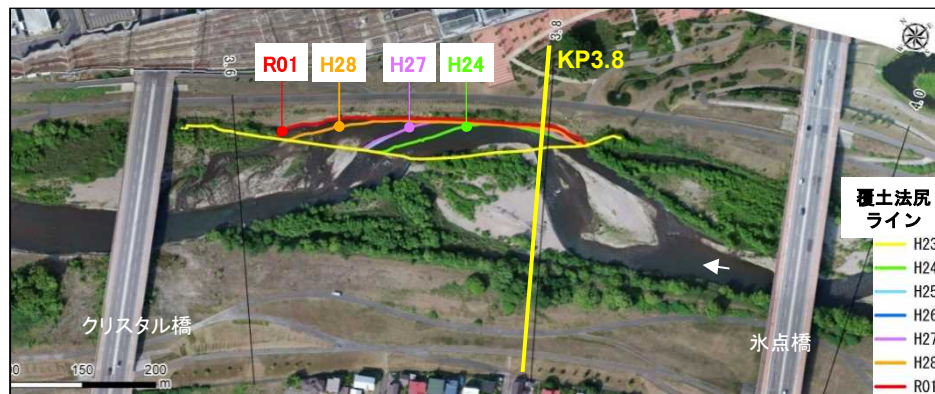


図 平均河床高、最深河床高、護岸基礎高

2. 重要インフラ緊急対策 樹木伐採・河道掘削 石狩川 近文大橋

1. 重要インフラ緊急対策

(1) 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の概要

1. 基本的な考え方

- 本対策は、「重要インフラの緊急点検の結果及び対応方策」(平成30年11月27日)のほか、既往点検の結果等を踏まえ、
 - ・防災のための重要インフラ等の機能維持
 - ・国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持
- の観点から、特に緊急に実施すべきソフト・ハード対策について、3年間で集中的に実施するもの。
- 国土交通省では、緊急点検結果を踏まえた対策62項目及び既往点検結果を踏まえた対策等5項目合計67項目について緊急対策を実施する。

2. 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」(国土交通省関係)の概要



伐採前

伐採後

河道掘削・樹木伐採(河川)

緊急点検結果を踏まえた対策(62項目)

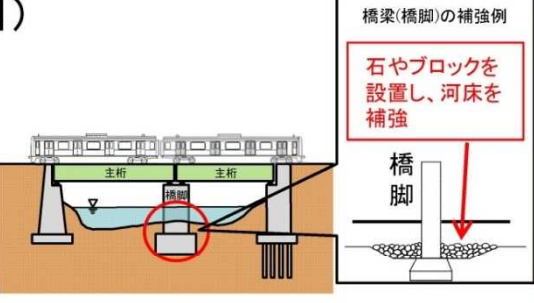


法面对策(道路)

止水扉の設置



電源設備等の浸水対策(空港)



橋梁(橋脚)の補強例

石やブロックを設置し、河床を補強

橋脚

河川橋梁の橋脚基礎部分の補強(鉄道)

+

既往点検結果を踏まえた対策等(5項目)

3. 本対策の期間と達成目標

- 期間: 2018年度～2020年度の3年間
- 達成目標: 防災・減災、国土強靱化を推進する観点から、対策を完了(概成)または大幅に進捗させる。

①【ソフト対策】災害発生時に命を守る情報発信の充実

※対策については主なものを記載

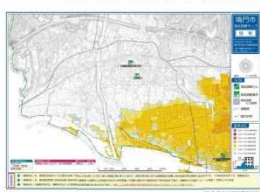
命を守るために必要なリスク情報の徹底的な周知

■重要インフラの緊急点検等で得られた人命に関わるリスク情報について、ハザードマップによる徹底的な周知を行う

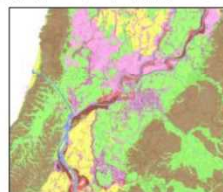
- ✓ 想定最大規模の降雨への対応として、
 - ・洪水ハザードマップの作成を概ね完了(市町村:約800市町村)
 - ・内水浸水により人命への影響が懸念される地下街を有する地区において、内水ハザードマップの作成を概ね完了(約20地方公共団体)
- ✓ 最大クラスの津波・高潮に備えて緊急の対応を要する市町村におけるハザードマップの作成を概ね完了(約50市町村)
- ✓ 土砂災害警戒区域の基礎調査の完了(約4万箇所)、土砂災害のおそれが高い市町村で土砂災害ハザードマップの作成を完了(約250市町村)
- ✓ 盛土造成地マップ(約600市区町村)、液状化ハザードマップ(約1,350市町村)の作成・公表率100%を達成
- ✓ 火山砂防ハザードマップの作成(約10火山)を完了
- ✓ 道路冠水危険箇所(アンダーパス等)の情報(約200箇所)
- ✓ 電柱倒壊危険エリアの情報(緊急輸送道路の区間約1万km)



洪水
ハザードマップ



津波
ハザードマップ



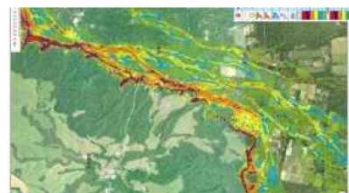
液状化
ハザードマップ



電柱
ハザードマップ



土砂災害ハザードマップ



火山砂防ハザードマップ

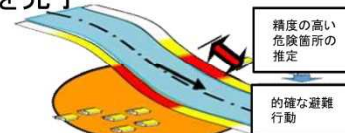


内水ハザードマップ

迅速な避難につながる河川情報の提供

■住民の避難行動を強く促す情報を発信する

- ✓ 氾濫の危険性が高く、人家や重要施設のある箇所において、災害の切迫状況等を伝える簡易型河川監視カメラ等(約3,900箇所)の設置を完了
- ✓ 河川の水位に関するリスク情報を「点」の情報から連続的な「線」の情報として提供する水害リスクラインのシステムの構築を完了



河川の左右岸別のリスクを
連続的な線の情報として表示

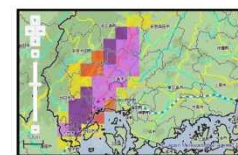


簡易型河川監視カメラ
(現場実証の状況)

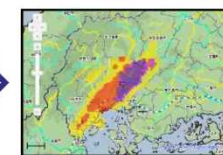
土砂災害から命を守る情報の充実

■土砂災害の発生のおそれを的確に判定する

- ✓ 土砂災害の発生のおそれがある領域をよりの確に絞り込めるよう土砂災害警戒判定メッシュの高精度化を完了



5kmメッシュ



1kmメッシュ

火山の監視カメラ等の整備

■火山周辺の監視体制を強化する

- ✓ 火山周辺の重要な監視カメラ等の整備や通信・電源の多重化を完了
- ✓ 通信・電源の状況を把握するためのシステムを完成



火山監視カメラ(イメージ)

②【ソフト対策】利用者の安全確保、迅速な復旧等に資する体制強化

※対策については主なものを記載

外国人旅行者等への情報提供体制の確保

■クルーズターミナル、新幹線、空港において情報提供体制を確保する

- ✓ クルーズターミナルにおける旅客への避難情報等の提供体制の構築を概ね完了
- ✓ 鉄道の運行情報等を入手できるよう、新幹線の全駅構内・車内に無料Wi-Fi環境を整備完了
- ✓ 空港における発災時の旅客避難計画の策定を概ね完了(空港BCP)



情報提供(イメージ)

全天候型ドローン等による情報収集

■台風等による強風時など様々な環境においても継続した情報収集体制を確保する

- ✓ 災害時の機動的な情報収集を可能とする全天候型ドローン(約30台)および陸上・水中レーザードローン(約10台)の広域配備を完了



風速20m/s程度の強風下で飛行可能

除雪

■大雪時の大規模な車両滞留リスクを低減する

- ✓ 除雪機械増強の体制強化等を概ね完了



除雪機械の増強

無電柱化

■電柱倒壊による道路閉塞等の被害を防止する

- ✓ 技術職員がいない自治体における事業実施をサポートする支援体制を構築

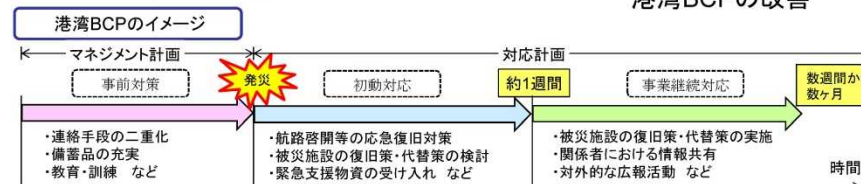
利用者の円滑な避難や安全の確保、施設の早期復旧に向けた業務継続計画(BCP)の充実

■全国の主要な港湾・空港施設においてBCPを充実・改善し、利用者の安全や施設の早期復旧を確保する

- ✓ 外貿コンテナターミナル(約40港)
- ✓ 内貿ユニットロードターミナル(約65港)
- ✓ クルーズターミナル(約40港)
- ✓ 緊急物資輸送ターミナル(約70港)
- ✓ 臨港道路(約85港)
- ✓ 防波堤(約65港)
- ✓ 空港(約16空港)



机上訓練を通じた港湾BCPの改善



BCPに基づく災害時燃料供給体制の確保、災害時に必要な資機材の確保、早期復旧体制の構築等

■下水道施設におけるBCPを強化するなど、被災時の早期復旧を確保する

- ✓ 災害時の下水処理機能の継続のために必要な燃料供給体制の確保を概ね完了(約1,100箇所)
- ✓ 浸水による機能停止リスクを低減させるために必要な資機材の確保を概ね完了(約70箇所)



下水処理場等における仮設揚水ポンプの確保(イメージ)

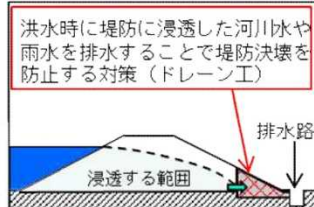
③【ハード対策】防災のための重要インフラ等の機能維持

※対策については主なものを記載

水害・土砂災害から命を守るインフラの強化

■水害・土砂災害から国民の命を守るため、インフラを強化する

- ✓ 氾濫による危険性が特に高い等の区間において、樹木・堆積土砂等起因した氾濫危険性解消を概ね完了(約2,340河川)
- ✓ 堤防決壊が発生した場合に湛水深が深く、特に多数の人命被害等が生じる恐れのある区間において、堤防強化対策等を概ね完了(約120河川)
- ✓ 土砂災害により避難所・避難路の被災する危険性が高い箇所のうち緊急性の高い箇所において、円滑な避難を確保する砂防堰堤の整備等の対策を概ね完了(約620箇所)
- ✓ 土砂・洪水氾濫により被災する危険性が高い箇所のうち緊急性の高い箇所において人命への著しい被害を防止する砂防堰堤、遊砂地等の整備や河道断面の拡大等の対策を概ね完了(約410箇所<砂防>、約20箇所<河川>)



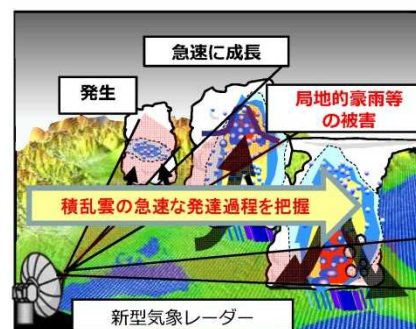
堤防の強化対策のイメージ



災害時にインフラの機能を維持するための電源確保

■地震時など電力供給が停止した際にもインフラの機能を維持できるよう非常用電源等を確保する

- ✓ 下水道施設(約200箇所)
- ✓ 道路施設(約1,600箇所)
- ✓ 気象・地震等観測施設(約1,100箇所)
- ✓ 水文観測所(約1,100箇所)
- ✓ 河川監視カメラ(約500箇所)



積乱雲の発達を把握する気象観測施設（イメージ）



観測施設における非常用電源等の確保

データの確実な提供・活用のための機能強化

■災害時でも運用を継続し、データを安定的に提供する

- ✓ 防水や移設等の対策により、電子基準点網等の耐災害性等の強化対策を概ね完了(約1,000件)



④【ハード対策】国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持

※対策については主なものを記載

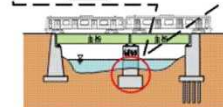
交通ネットワークの強化

■ 1日でも早く平常の暮らしや経済を取り戻すための迅速な復旧・復興を強力に進める交通ネットワークを確保する

- ✓ 豪雨による土砂災害等の発生を防止するための道路法面・盛土対策を概ね完了（約2,000箇所）
- ✓ 道路橋（約600箇所）・道の駅（約30箇所）の耐震対策を概ね完了
- ✓ 緊急車両の交通機能障害等のリスク低減策が必要な箇所において、液状化によるマンホール浮上防止対策（約200km）・管路の耐震化（約600km）を概ね完了
- ✓ 豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜を防止するための対策を概ね完了（約50箇所）
- ✓ 豪雨による鉄道隣接斜面の崩壊を防止するための土砂流入防止対策を概ね完了（約190箇所）
- ✓ 航空輸送上重要な空港等のうち、特に浸水の可能性が懸念される空港の護岸の嵩上げや排水機能の強化による対策を完了（約6空港）
- ✓ 航空輸送上重要な空港等のうち、特に浸水の可能性が懸念されるターミナルビルの電源設備等の浸水対策を概ね完了（約7空港）
- ✓ 外貿コンテナターミナルのうち、事業実施環境が整った箇所について浸水対策を概ね完了（コンテナ流出対策：約30施設、電源浸水対策：約20施設）



法面法枠工



鉄道河川橋梁の基礎部分の補強



地下電源設備の浸水被害



電気系設備の嵩上げ

経済・生活を支える身近なインフラの強化

■ 平常の暮らしに身近なインフラに潜む災害リスクを取り除き、安全・安心を向上させる

- ✓ 豪雨による冠水被害を防止するための道路（約1,200箇所）やアンダーパス部（約200箇所）の排水施設等の補修等を概ね完了



道路の冠水状況



道路上の排水施設

- ✓ 地震時等に大規模火災の危険性がある密集市街地のうち、特に整備改善が必要な約2,800haにおいて、老朽建築物の撤去や延焼防止性能をもつ建築物への建替、避難路を整備し、地震時に著しく危険な密集市街地を概ね解消



【従前】



【従後】

密集市街地における避難路の整備

- ✓ 大規模地震による駅、鉄道高架橋柱の倒壊・損傷を防止するための耐震対策を概ね完了（駅：約40箇所、高架橋柱：約5,900箇所）

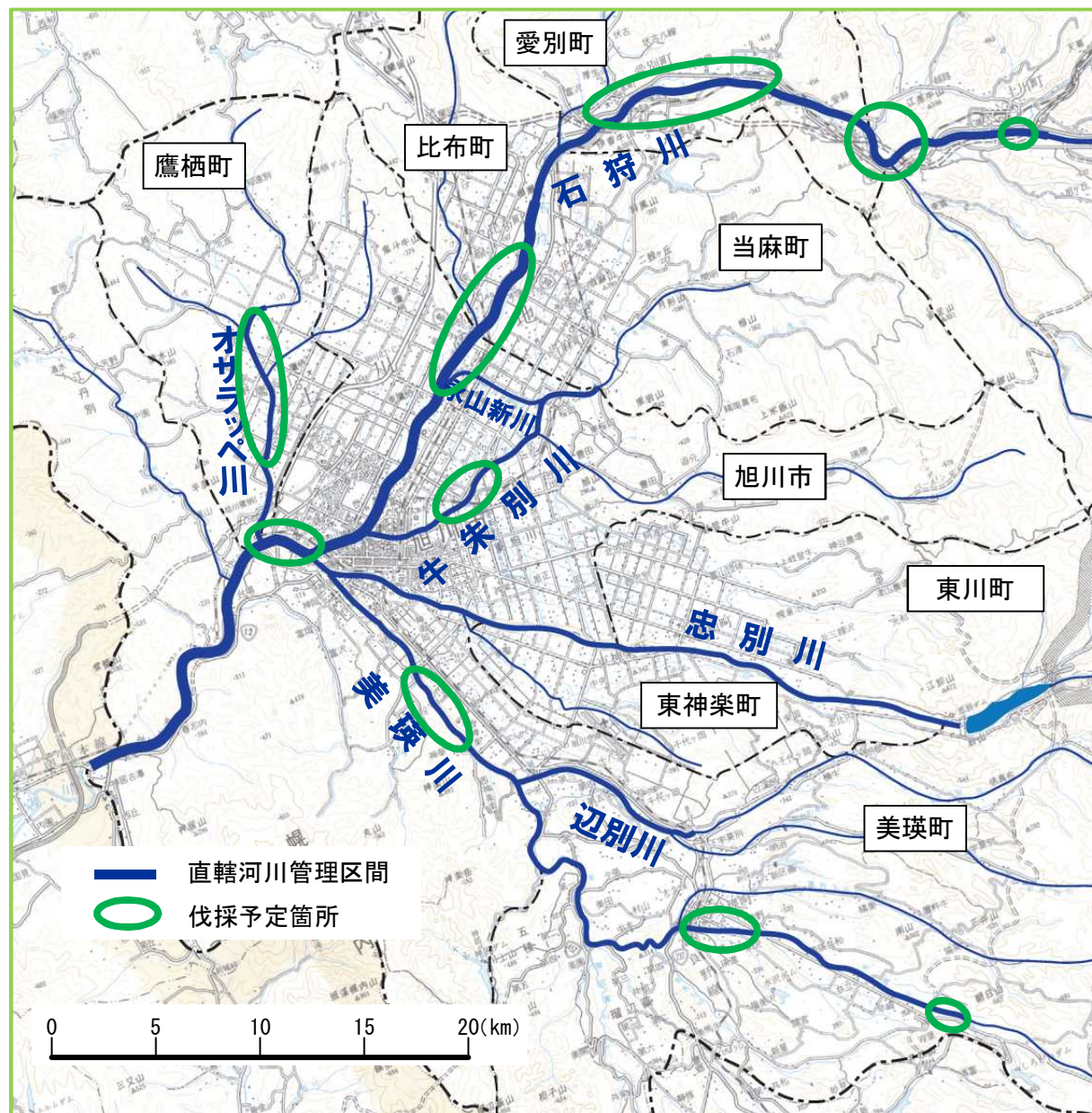


鉄骨ブレースによる駅の耐震補強

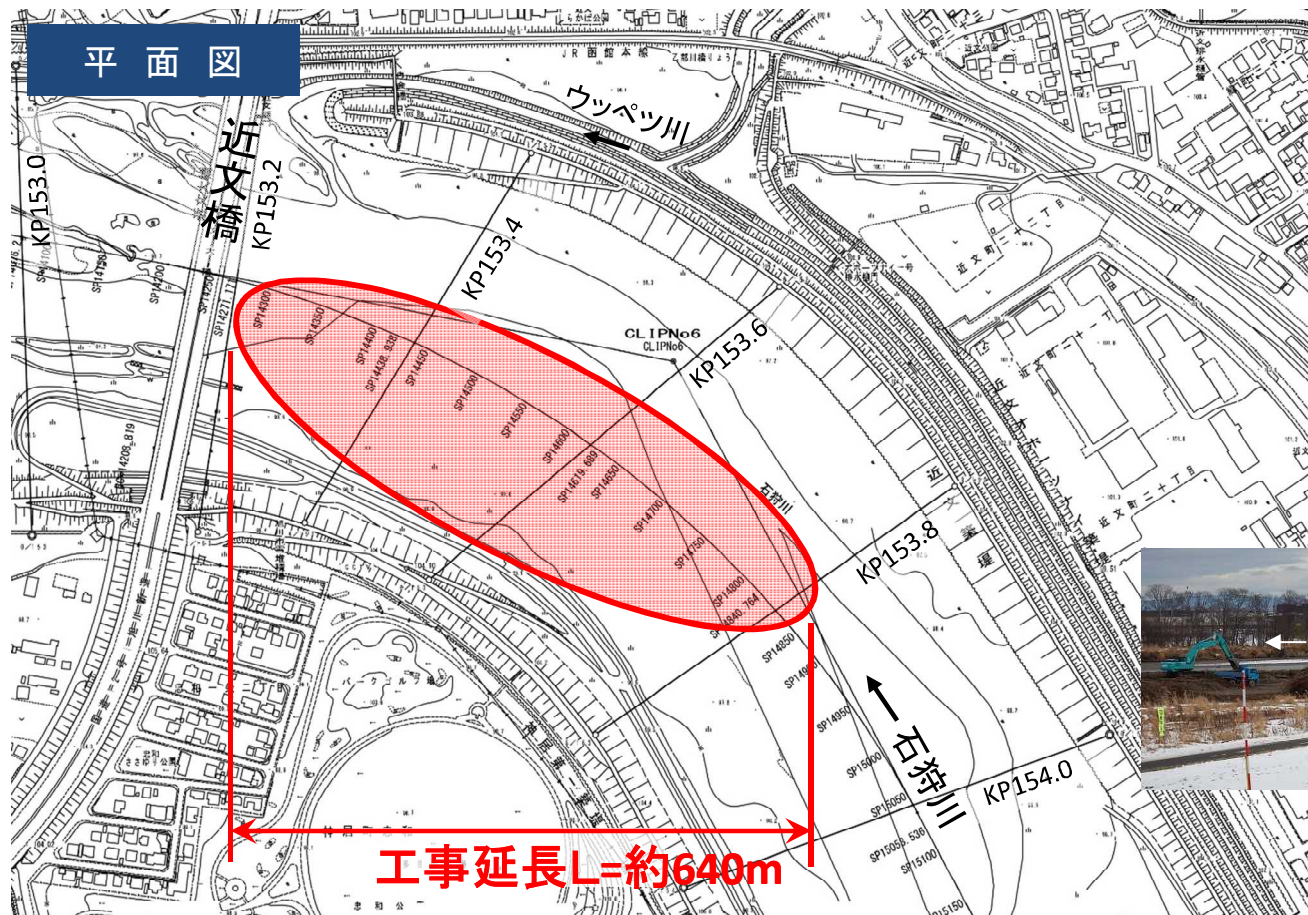
(2) 石狩川上流における緊急対策の概要

重要インフラの緊急点検結果を踏まえ、石狩川上流域では、石狩川、美瑛川ほか氾濫による危険性が特に高い区間を特定し、緊急対策として「樹木伐採」および「河道掘削」を実施する。

河川名	対策区間 延長(km)
石狩川	10.1
美瑛川	7.8
牛朱別川	2.7
オサラッペ川	6.5



河川整備計画による河道掘削（近文地区）



施工前



R01.11.13撮影

R01施工中(河道掘削)

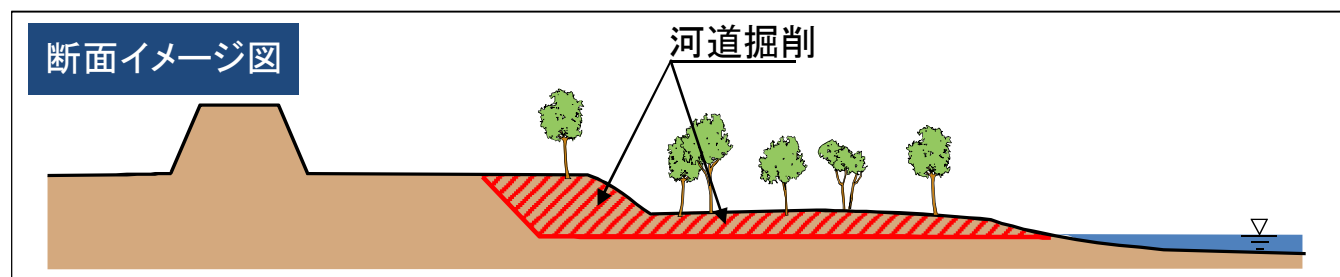


R01.11.27撮影

施工後



R02.1.24撮影



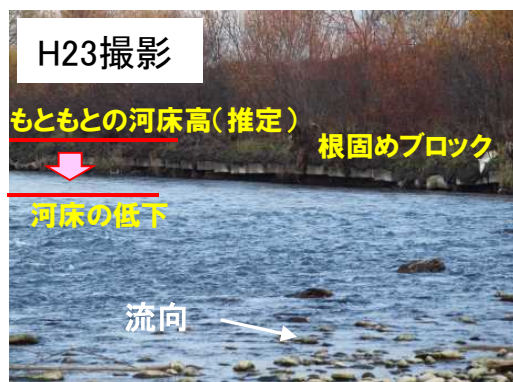
3. 石狩川上流 河道再生工事について

3-1. 河床低下の課題及び現状

これまで石狩川では河床低下が顕著であり、既設護岸や橋脚の安定性低下、露岩化による河川生物の生息環境の悪化が課題であったが、現在、河床低下対策工の実施により課題が解消されつつある。

＜工事前：河床低下対策実施前＞

護岸（KP160.7左岸）



護岸ブロックの損傷

橋脚（花咲大橋）



橋脚付近の洗堀状況

露岩（花咲大橋上流）



露岩状況

河床低下対策工(低水路拡幅+覆礫+護岸改修)を実施

＜工事段階施工中：施工済み区間＞



対策工により治水安全度を向上



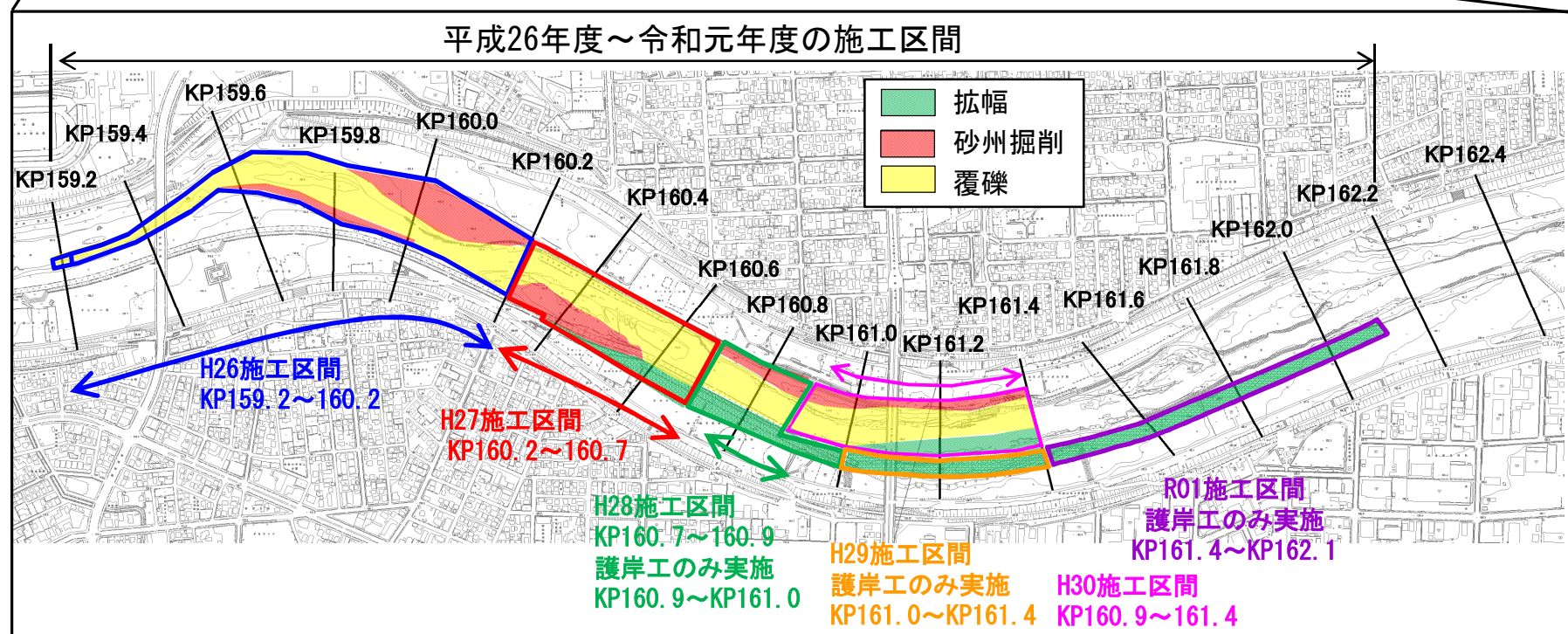
橋脚付近の洗堀が解消



露岩箇所が砂礫に回復し、近年サケの産卵床を確認

3-2. 石狩川上流河道再生工事

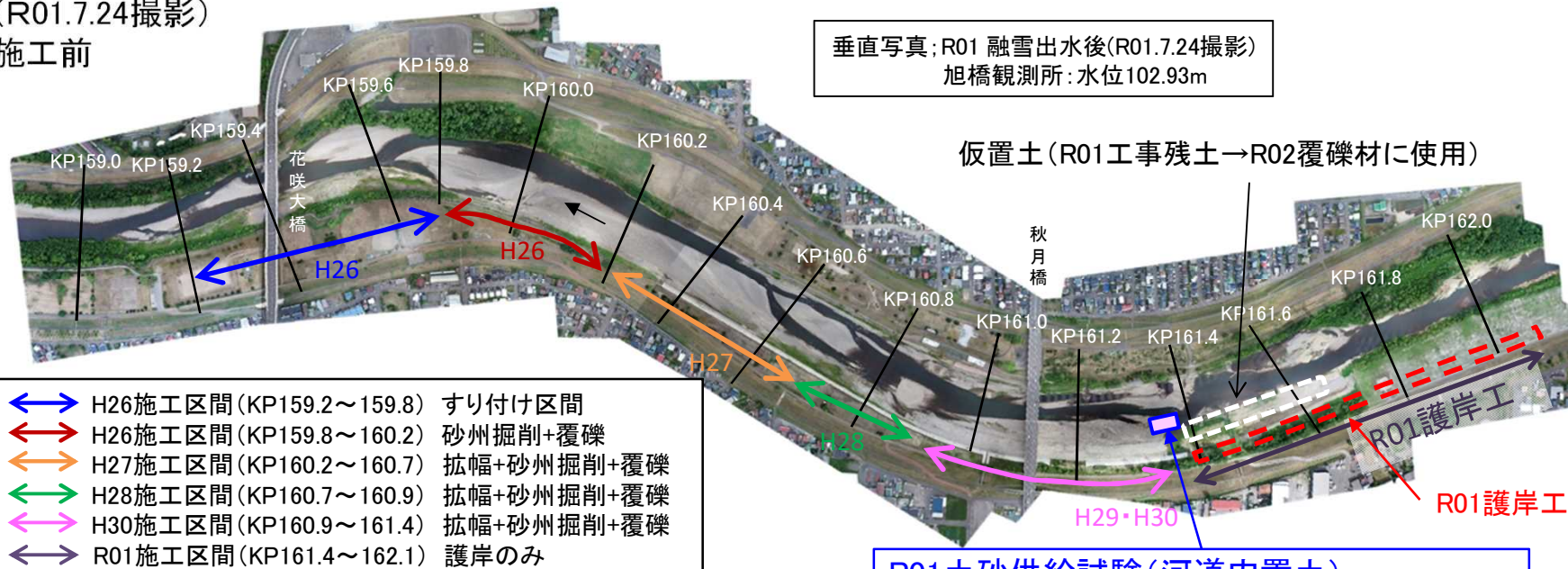
- 石狩川上流河道再生工事区間は、KP159.1(花咲大橋下流)～KP164.6(永山橋下流)である。
- 平成26年度より工事を開始し、今年度(R01)で6年目となる。次年度以降も上流に工事を進捗させる予定である。



3-3. 令和元年度工事内容 (KP161.4~162.1) 護岸工・土砂供給試験

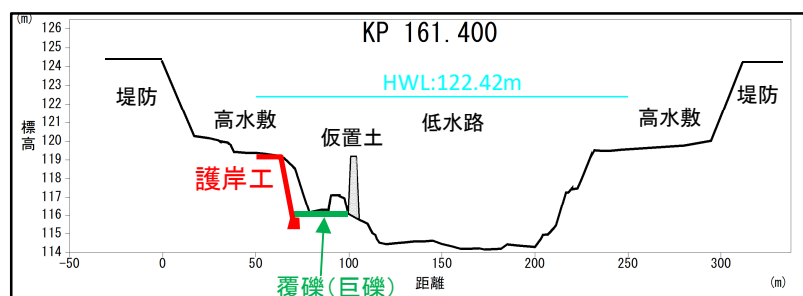
●現在 (R01.7.24撮影)

R01施工前



●R01年度施工

・護岸工



・土砂供給試験 (河道内置土)

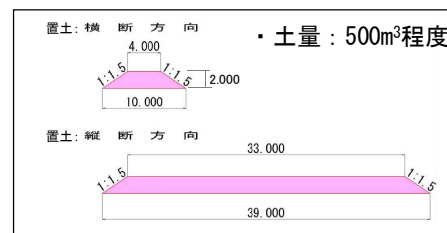
- ・河道内置土による下流への砂礫還元試験を行う。
- ・R01年度工事の下流区間 (KP161.30~161.40) において、現況河岸に土砂を置土し、R02出水による土砂流出を期待する。
- ・次年度にモニタリング調査を実施し、出水後の置土形状の変化状況を確認し、融雪出水で確実に流下可能な事を確認する。

＜土砂供給試験 (河道内置土)＞

- ・延長 : 39m
- ・土量 : 500m³程度 (盛土高: 2m程度、天端幅4m)

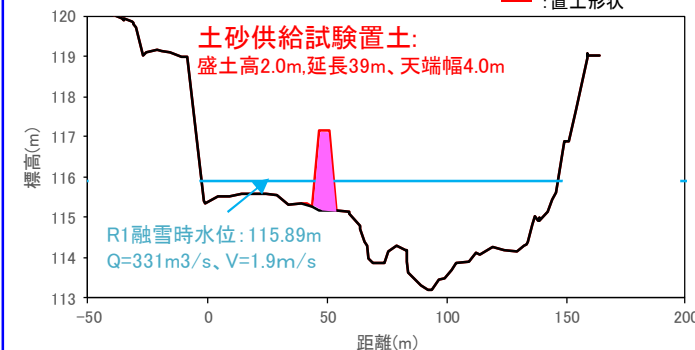
R01土砂供給試験 (河道内置土)

・置土形状



・土砂供給試験 (置土) KP161.3横断図

— : R1夏季出水後河道
— : 置土形状

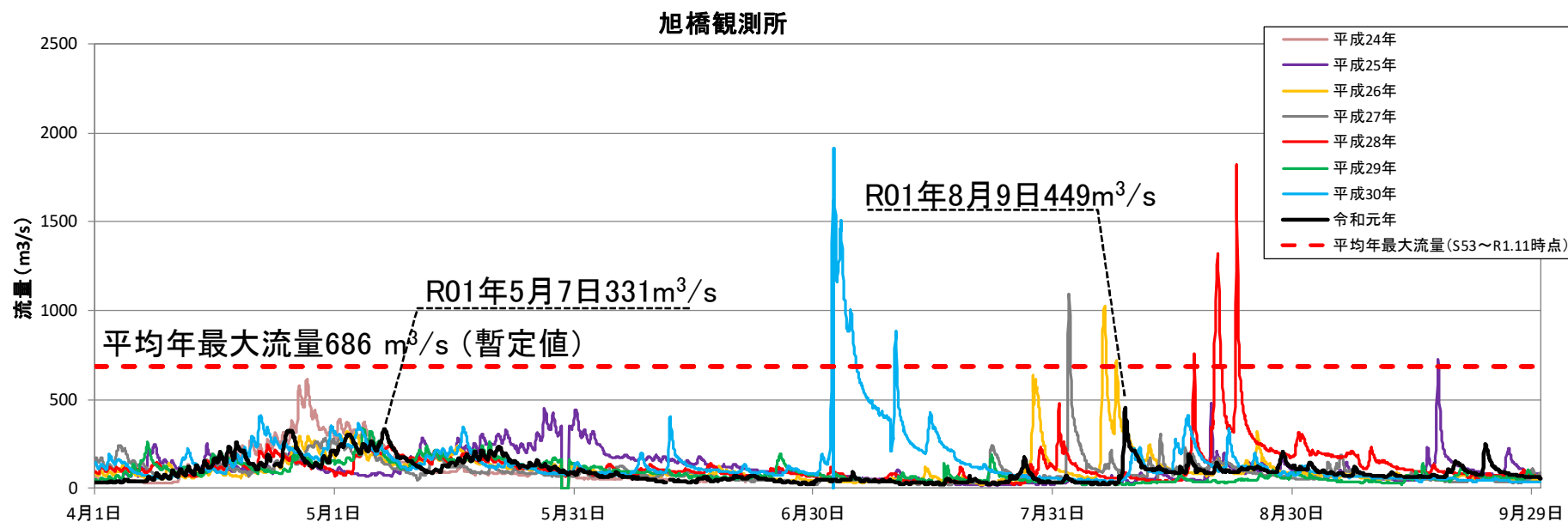


3-4. R01モニタリング結果

(1) 流量

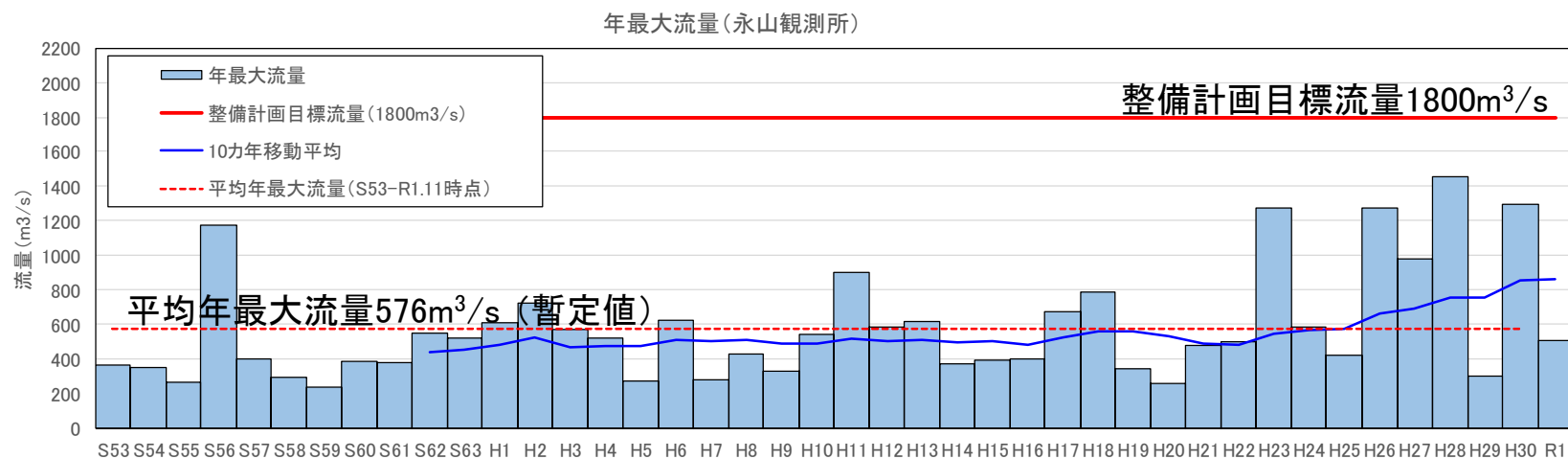
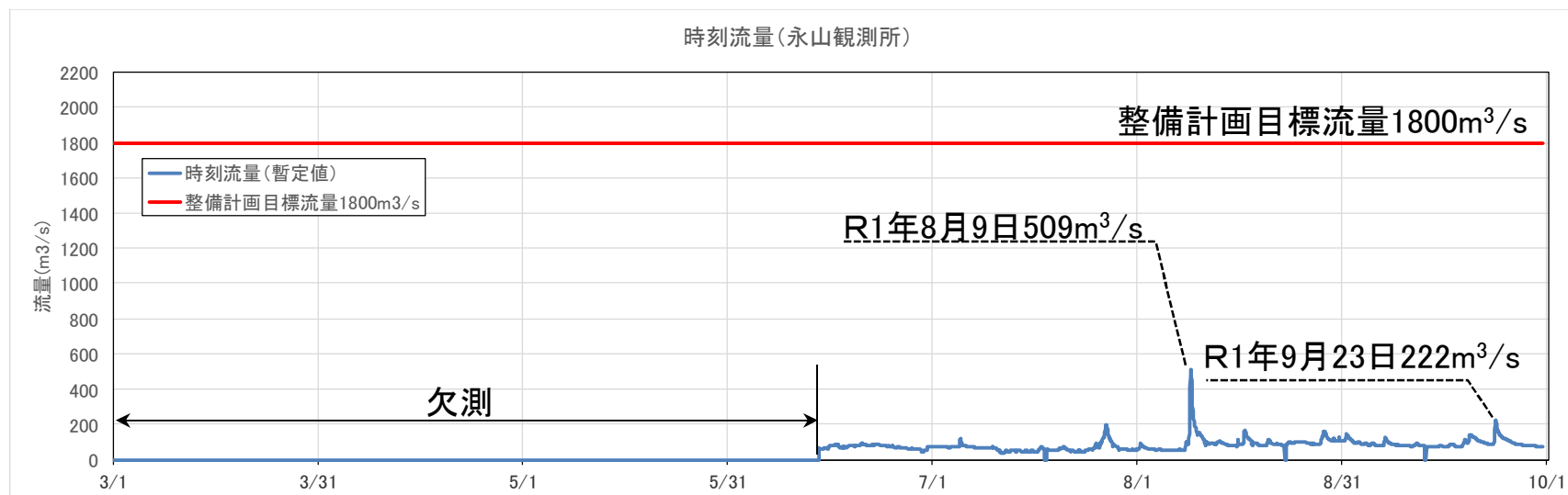
①旭橋観測所流量

- R01年の融雪期ピーク流量は $331\text{m}^3/\text{s}$ （暫定値）であり、平年並みの規模であった。
- R01年の夏季出水ピーク流量は $449\text{m}^3/\text{s}$ （暫定値）であり、平均年最大流量 $686\text{m}^3/\text{s}$ （暫定値）を下回る出水であった。



②永山観測所流量

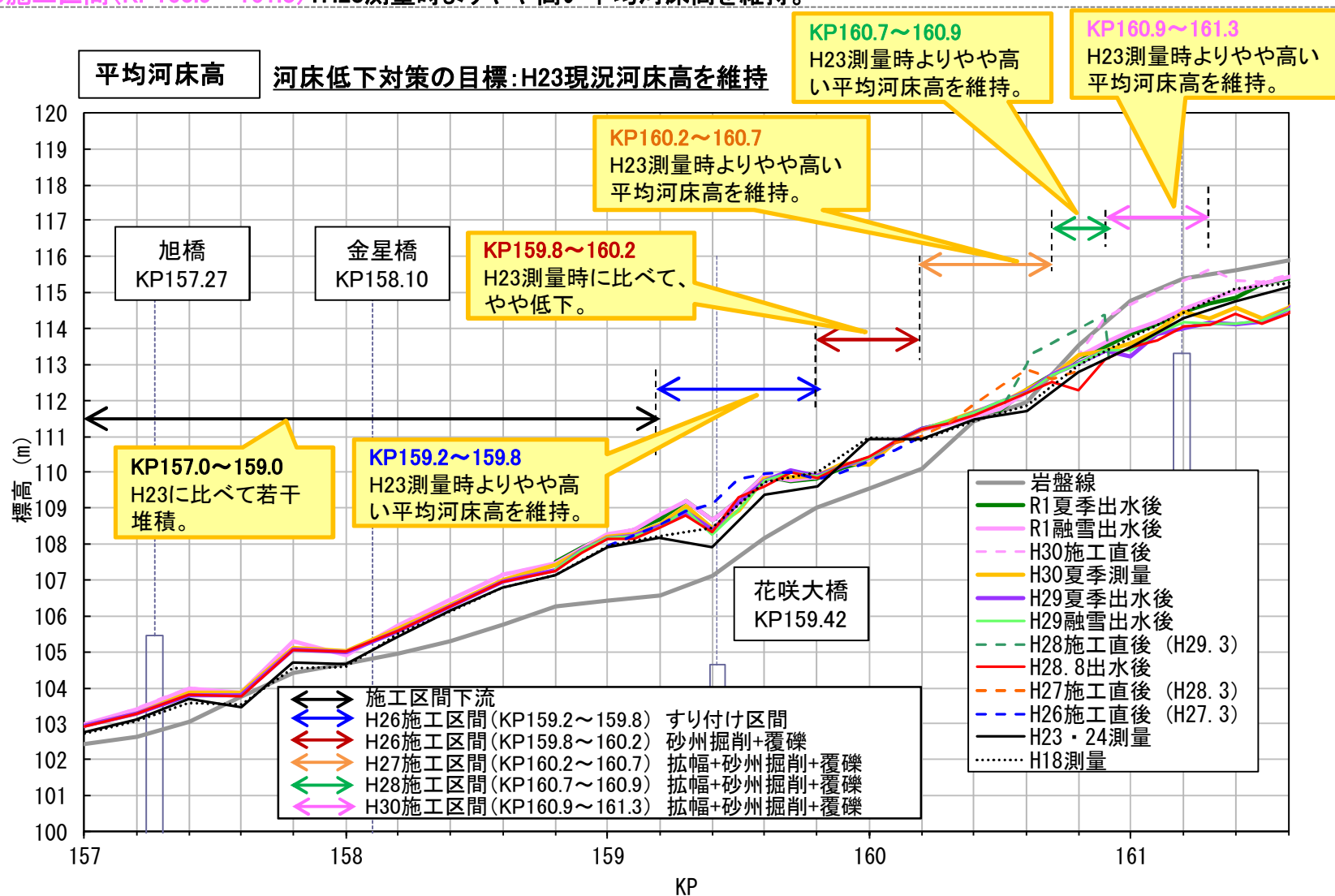
- R01年の夏季出水ピーク流量は $509\text{m}^3/\text{s}$ （暫定値）であり、平均年最大流量 $576\text{m}^3/\text{s}$ （暫定値）を下回る出水であった。
- R01年の出水規模は、経年的、特に近年は出水規模が大きかった時に比べて低めであった。



➡ H26年度より工事開始

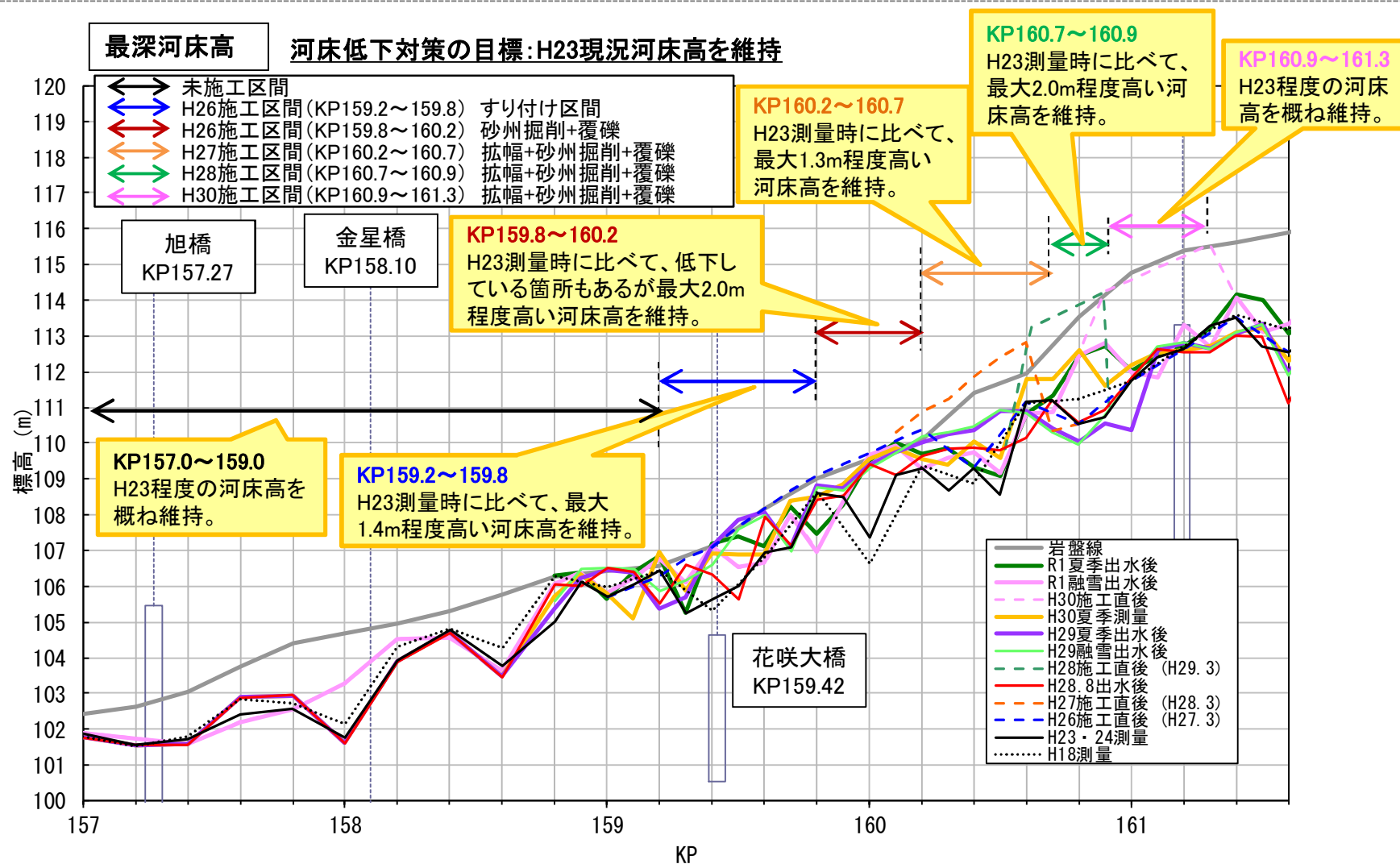
(2) 縦断図 ①平均河床高縦断図

- 未施工区間(KP157.0～159.0) : H23測量時に比べて、若干堆積。
- H26施工区間(KP159.2～159.8) : H23測量時よりやや高い平均河床高を維持。
- H26施工区間(KP159.8～160.2) : H23測量時に比べて、やや低下。
- H27施工区間(KP160.2～160.7) : H23測量時よりやや高い平均河床高を維持。
- H28施工区間(KP160.7～160.9) : H23測量時よりやや高い平均河床高を維持。
- H30施工区間(KP160.9～161.3) : H23測量時よりやや高い平均河床高を維持。



②最深河床高縦断図

- 未施工区間 (KP157.0～159.0) : H23程度の河床高を概ね維持。
- H26施工区間 (KP159.2～159.8) : H23測量時に比べて、最大1.4m程度高い河床高を維持。
- H26施工区間 (KP159.8～160.2) : H23測量時に比べて、低下している箇所もあるが最大2.0m程度高い河床高を維持。
- H27施工区間 (KP160.2～160.7) : H23測量時に比べて、最大1.3m程度高い河床高を維持。
- H28施工区間 (KP160.7～160.9) : H23測量時に比べて、最大2.0m程度高い河床高を維持。
- H28施工区間 (KP160.9～161.3) : H23程度の河床高を概ね維持。



①対策実施前：H23・24、対策実施後：H30.8

-
- 露岩コンター図(H23・24測量)**
- 花咲大橋
- KP159.2 KP159.4 KP159.6 KP159.8 KP160.0 KP160.2 KP160.4 KP160.6 KP160.8 KP161.0 KP161.2 KP161.4
- 秋月橋
- ※100m間隔の横断、推定岩盤線より作成
- H30露岩コンター図(H30.8測量)**
- 花咲大橋
- KP159.2 KP159.4 KP159.6 KP159.8 KP160.0 KP160.2 KP160.4 KP160.6 KP160.8 KP161.0 KP161.2 KP161.4
- 秋月橋
- ※100m間隔の横断、推定岩盤線より作成
- : 露岩
- iRIC Software
Changing River Science
- | | | |
|------------|------------------------|------------|
| ↔ (Blue) | H26施工区間(KP159.2～159.8) | すり付け区間 |
| ↔ (Pink) | H26施工区間(KP159.8～160.2) | 砂州掘削+覆礫 |
| ↔ (Orange) | H27施工区間(KP160.2～160.7) | 拡幅+砂州掘削+覆礫 |
| ↔ (Green) | H28施工区間(KP160.7～160.9) | 拡幅+砂州掘削+覆礫 |
- ※100m間隔の横断、推定岩盤線より作成

推定岩盤線の設定

- ・過年度の推定岩盤線はボーリングデータを基に、水平に設定(緑実線)
- ・今年度、低水路内の岩盤線は経年的な河床変動を考慮して再設定(赤点線)

↓

- ・推定岩盤線(更新):桃色線

砂礫層

軟岩層

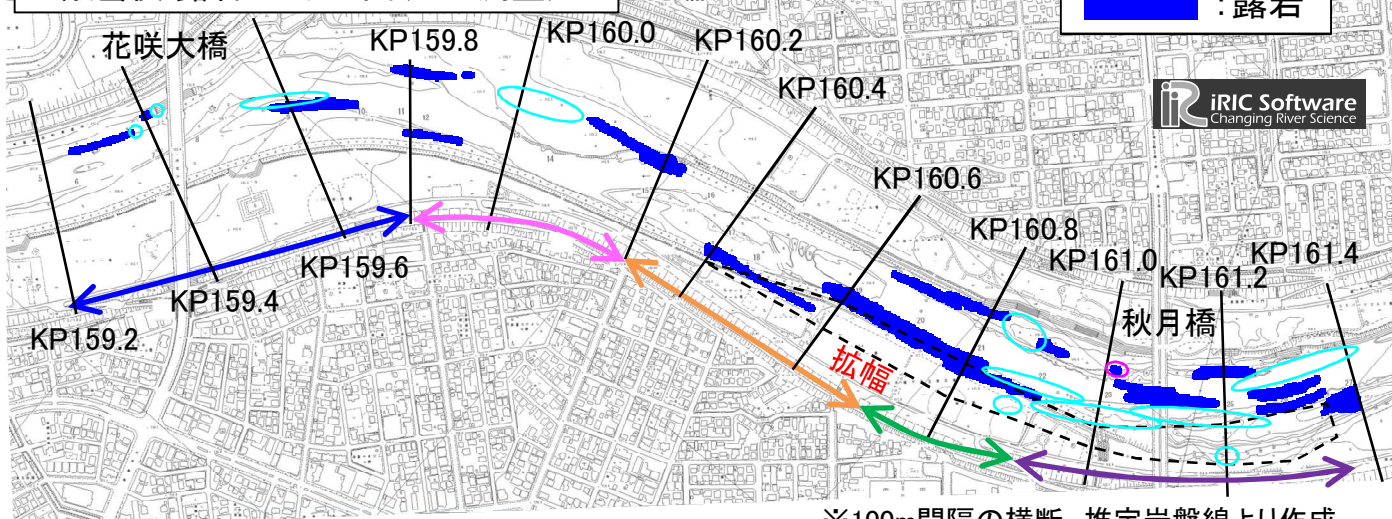
横断イメージ図

露岩面積
39,000m²
(KP159.2~161.4)

②対策実施後：R01融雪出水後、R01夏季出水後

- 融雪出水後(R1.6)は対策実施前(H23・24)に比べ、露岩面積は67%程度減少している。(H30.8に比べて28%程度現象)
- 夏季出水後(R1.10)は対策実施前(H23・24)に比べ、露岩面積は74%程度減少している。(R1.6に比べて21%程度現象)

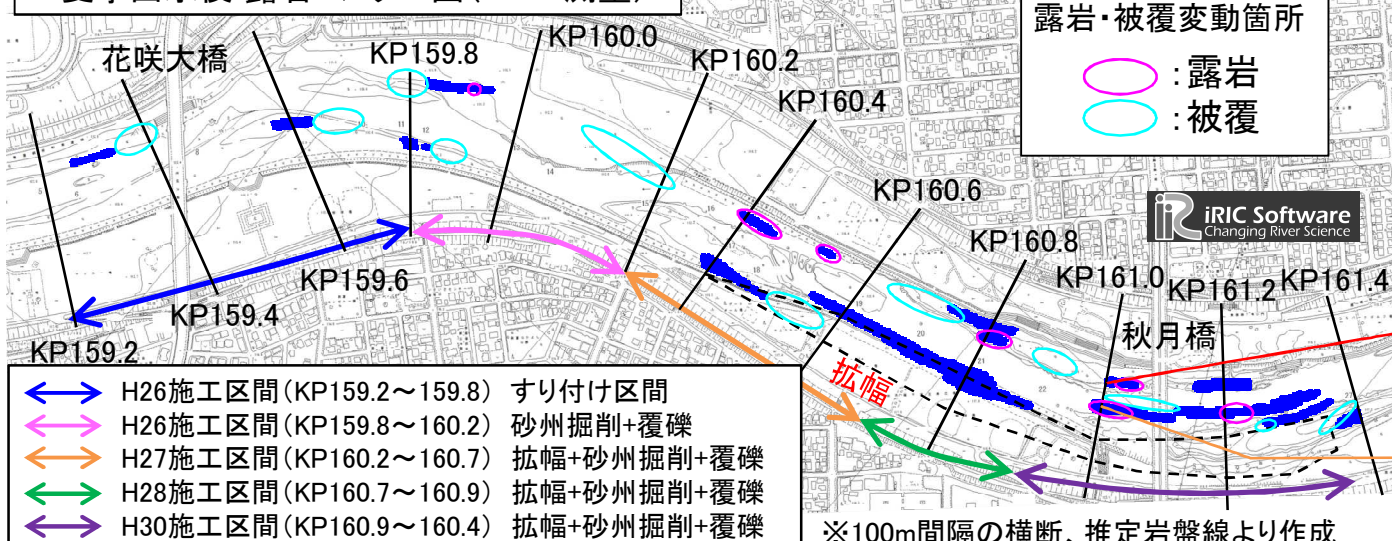
R1融雪後 露岩コンター図(R1.6測量)



露岩面積
28,000m²
(KP159.2～161.4)

※100m間隔の横断、推定岩盤線より作成

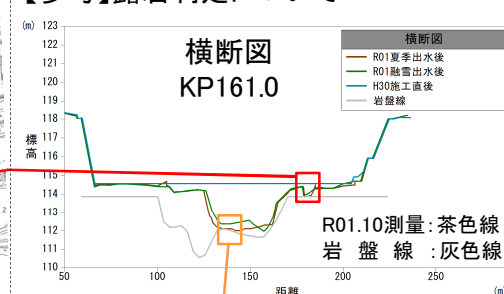
R1夏季出水後 露岩コンター図(R1.10測量)



露岩面積
22,000m²
(KP159.2～161.4)

※100m間隔の横断、推定岩盤線より作成

【参考】露岩判定について



測量横断線が推定岩盤線を下回る箇所を露岩と判定

4. 美瑛川 青い池について

十勝岳直轄火山砂防事業

十勝岳噴火と火山砂防事業経緯

北海道開発局

- 十勝岳は30～40年の周期で活発な火山活動を繰り返し、大正15年噴火では融雪型火山泥流により死者144名
- 昭和63年の噴火を契機に「火山泥流対策基本計画」を策定し、平成元年より直轄火山砂防事業に着手



大正15年噴火

30～40数年周期で噴火を繰り返す十勝岳

死者・行方不明144名

死者5名・温泉観光客
自衛隊の誘導で避難白金地区に避難命令発令
住民の避難生活127日間

周期▶ 1857年 31年 1888年 38年 1926年 36年 1962年 26年 1988年 ?年

●安政4年の噴火 ●明治21年の噴火 ●大正15年の噴火 ●昭和37年の噴火 ●昭和63年の噴火

直轄事業の契機となった
昭和63年噴火

- 直轄火山砂防事業に着手以降、大正15年噴火規模の融雪型火山泥流から白金温泉街や美瑛町市街地を保全するための砂防設備を整備（火山砂防事業として最初に整備したブロック堰堤は緊急を要するため約6ヶ月で完成させた）

- これまで導流堤、床固工、砂防堰堤、流路工を整備しており、早期完成を目指す



大正15年噴火による融雪型火山泥流の流下範囲

美瑛町市街地や農地を守る砂防設備



美瑛川床固工群

白金温泉を守る砂防設備



青い池（十勝岳直轄火山砂防事業）

北海道開発局

【観光スポットとなった青い池】

昭和63年十勝岳噴火時に緊急施工した美瑛川のブロック堰堤に水が滞留してできた幻想的な風景が、「青い池」として口コミで広がり観光地となっている。現在もTV番組や雑誌で紹介され観光ツアーに組み込まれるなど年間約46万人の観光客が訪れている。（H26のTV放送：TV朝日「奇跡の地球物語～神秘の青い池～」、TV東京「アド街ック天国～北海道・美瑛～」など）

レストランの開業や関連商品の販売で「青い池」ブームが盛り上がっているほか、地元写真家が撮影した写真のApple社OS「OS X Mountain Lion」の壁紙採用、CMやプロモーションビデオの撮影ロケ地になるなど注目を浴びている。



例年、多くの観光客が訪れるようになった「青い池」（H28 推計 年間約46万人）



2012発売のMacBook Proの壁紙に採用された冬の青い池

Apple社HPより



青い池に訪れた観光客



上川総合振興局HPより
美瑛サイダー Aoi IKE



NHK プラタモリでの放送(2019年11月17日)

池が青く見えるのは・・・

- ・上流の白金温泉地区で湧出しているアルミニウムを含んだ水が、美瑛川の河川水と混じることにより、コロイドが生成。
- ・太陽光が水中のコロイド粒子と衝突し、波長の短い青い光が散乱されるため、青く見えると言われている。



青い池 ライトアップの様子(2019.11)



駐車場の様子(2019.11)

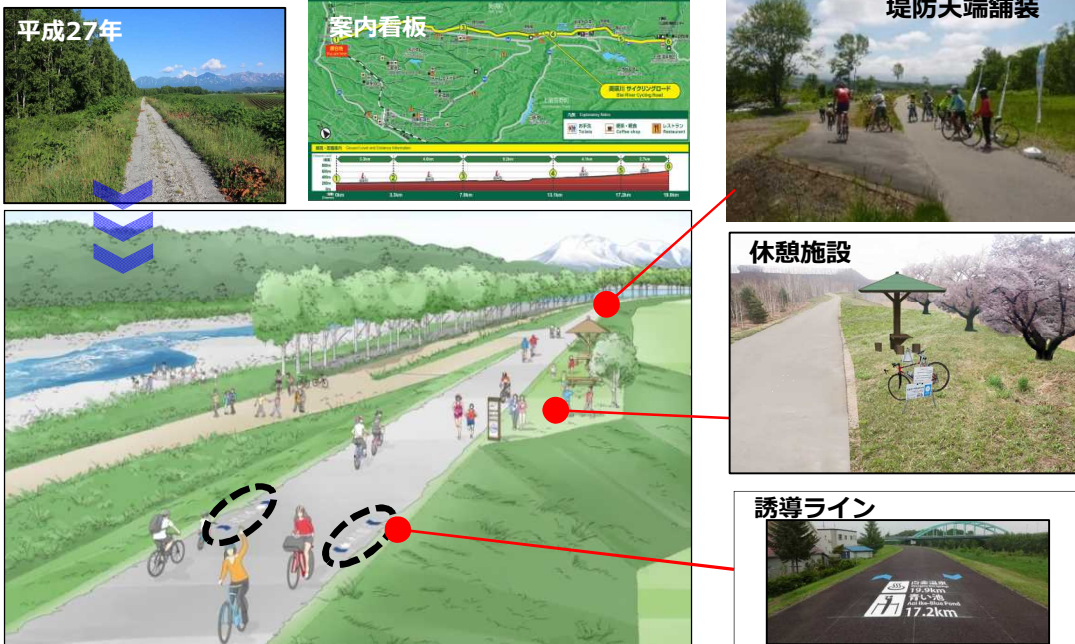
美瑛川地区かわまち ～美瑛川をサイクリング観光の拠点にする取り組み～

平成26年3月26日に国土交通省のかわまちづくり支援制度に登録された「美瑛川地区かわまちづくり計画」に基づき、美瑛川河川空間をサイクリングロードとして活用するため、美瑛町と連携しながら整備を行っております。

サイクリングコース図



整備内容



WG開催状況

道内や地元のサイクリスト、沿川カフェ経営者等から意見を聞くワーキンググループを開催し休憩施設の位置、案内看板や誘導ラインの設置位置やデザイン、利活用に向けた取組などを議論しています。



社会実験

周辺16施設にサイクルラックなどを設置しその有効性、必要性に関する社会実験を実施。自転車がお店を利用しやすいなどの好意的な意見が多く、利用者の増加が期待される結果でした。

